

# 施工

## 捨てコーキングによる二重防水、及び切断部の保護

国内メーカーによる乾式タイル工法では、タイル下地はサイディング主体であり、下地材のサイディングの時点で捨てコーキングによる防水が基本となっています。

この下地の時点での防水処理を、RBシステム施工時でも基本としています。

レンガと目地による防水、レール下地による防水の二重防水で、  
雨漏りを完全にシャットアウト。

また、捨てコーキングを施す箇所は切断面でもあるため、  
コーキングを施す事により、防錆効果も得られます。

※詳細は施工マニュアルをご覧ください。

## レンガ役物 (加工レンガ) の接着

レンガ下地レールにレンガをはめ込んでいく際に、  
加工していないレンガ (平物) は接着しない事により適度な遊びを持たせ、  
地震の際などに力を逃す作用があります。

しかし、出隅、入隅、サッシ周り等に使用するレンガ役物は接着することにより、  
施工中のレンガの暴れや、仕上がりのバラツキを無くすことができます。

## サッシ下部や軒天際に使用するレール (トップレール) の排除

サッシ下部や軒天際のレンガを収めるためにトップレールを使用してしまうと、  
仕上げの際に行うコーキングが3面接着となり、  
時間経過と共にコーキングが剥離してくる可能性があります。(木造住宅における場合)  
そのため、同箇所のレンガはトップレールを使用せず、圧着張りを基本としています。  
そうする事で、コーキングが2面接着となり、コーキングの耐久性アップに繋がります。

